

I 「ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい」：1。

1. ここでも大切な事は、神にならう者となる前に、神の恵みが先行していること、神に愛されている子どもである事の自覚、感謝です。私達が思っている以上に私達は神に愛されているのです。→「神に…愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい」（コロ3：12）。「神に愛されている人々」（ローマ1：7）。「神に愛されている兄弟たち」（Iテサ1：4）。悪魔が、この愛を疑わせる（私なんか神に愛されていないと）時、この5：1を包んでいる4：32の御父の愛と5：1後半のキリストの愛を忘れないで、見つめましょう→「神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さった」4：32と「キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました」5：2。御父は大切なひとり子をお与えになったほどに、そしてキリストご自身はご自分の命をお与えになったほどにあなたを、私達を愛しておられるのです。

2. こんなに神に愛されている子どもらしく、「神にならう者となりなさい」：1。私達を心から愛しておられる神にならうとは＝神に背き敵対していた私達を愛し救い赦して下さったように→「あなたの敵を愛しなさい。…あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。…そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子ども（神にならう、神に似ている子ども）になれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人（私達もそうだった。しかし、今は神に愛され救われている！驚くべき恵み！）にも、あわれみ深いからです。あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません（人を正しくさばくのは、神ご自身）。…赦しなさい（まず、自分自身が神に赦されたように）。そうすれば、自分も赦されます（これは、赦しの条件ではなく、人を赦さない罪が赦され、神との関係が回復するの意）。与えなさい（私達に今、与えられているものは、すべて、神からいただいている事を忘れず、感謝しつつ、必要を覚えている人に喜んで与える）。そうすれば自分も与えられます」（ルカ6：27－38）。神は、すべてをご覧になり、与えられた物を、独り占めにしない人に、また恵みを与えられる。その人は神に感謝し、また神と人に捧げる。その霊的な流れは、欲で濁らず、うるわしい与える流れが続く。※死海と綺麗な川の違い。

II 「また、愛のうちに歩みなさい」：2。

1. 主から離れた私達は、無慈悲、憤り、怒り、叫び、悪口、悪意の内を歩んでしまいます。

2. しかし、神に愛され赦され続ける時、神の愛のうちに歩めるのです。まず神の愛のうちにとどまる事が大切です。「わたしの愛のうちにとどまりなさい」（ヨハネ15：9）。3. この愛、アガペーとは＝「愛は寛容（短気でなく気長、長い苦しみに寄り添う）であり、愛は親切（いつくしみ深い）です。また人をねたみません（人と比べず、神が自分に与えられたものを感謝する）。愛は自慢せず、高慢になりません（何かが出来た時、その力を与えられた神に感謝し、支えてくれた人にも感謝する）。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず（自己中心ではなく、神と隣人を愛する）、怒らず（怒りの爆発ではなく、怒りを言葉化する）、人のした悪を思わず（人がしてくれた良い事を思い感謝する）、不正を喜ばずに真理（真理の御言葉、真理である主ご自身を）を喜びます。すべてをがまんし（自分の力で我慢し過ぎ心で恨むのではなく、愛を持って真実を語り、すぐには変わらない相手を神の愛を祈り求め忍耐する）、すべてを望み（過度の期待で相手を追い込むのではなく、ちょうど良い励ます期待、希望）、すべてを耐え忍びます（辛い所からすぐに逃げずに、その辛い中に共におられる主にとどまる）。愛は決して絶えることはありません（神の愛は、

感情的な変わり易い愛ではなく、神の変わらない意志を土台とした愛、溢れて来る愛)(Iコリ13:4-8)。もし私が主に救われていなければ、もっと愛のない私!

Ⅲ 神にならい、自分を侮辱する難しい人を愛する愛の源→「キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました」:2

1. 「キリストも」私達を愛しておられます。まずキリストが敵対していた私達を愛された。今も愛しておられる。この自覚が大切です。その為に毎日、御言葉を味わう事が必要です。パウロの自覚、確信＝「いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです」(ガラ2:20)。主と主の恵みから目を離さないのが信仰です。

2. キリストの私達への愛の現れ→「私たちのために、ご自身を…おささげになりました」。私達の救いの為の主の自己否定、自己放棄、自己犠牲。ご自身を神への①「ささげ物」＝主は私達の救いの為に神の律法を全うする為に完全な従順な御生涯を神に奉げられました。②「いけにえ」。血を流す供え物。主は私達の罪をすべて償う為に十字架で血を流し、いけにえとなられた。「あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、わたしのために、からだ(クリスマス)を造ってくださいました。あなたは全焼のいけにえと罪のためのいけにえとでは満足されませんでした。そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについてしるされているとおり、神よ、あなたのみこころを行うために。』ヘブル10:5-7。「芳ばしい香り」＝神が全焼のいけにえを喜び受け入れてくださるかおり。創世記8:21、出29:18、レビ1:9。神は旧約時代の動物のいけにえでは、人々の罪の完全な宥めとしては満足されませんでした、神の人間の罪への正しい怒りは、動物のいけにえでは、宥める事は出来なかったのです。それほど私達人間の罪は重かったのです。神は深い愛と聖なる義(罪は罪として正しく裁かれる正義の神、罪に対して正しく怒られる神)のお方です。神の子羊であるキリストの十字架の死、血は神の義を完全に満足させ喜び受け入れられる芳ばしい香りとなったのです。旧約聖書のいけにえを読むと、私達の罪の為に主の十字架のいけにえの意味が深く理解できるようになります。

Ⅳ 現在、世界で、大切にされている事。コロナウイルスの戦いの中で、分断ではなく、協力が必要!

現在、人種差別の事が、世界中で起きています。この問題の根本的な解決は、どこにあるのでしょうか。それは、神が、全世界の人間(黒人、白人、黄色人の人々)を造られ、すべての人種の人々を差別なく愛し、一人も滅びることなく、主を信じ救われて欲しいと願っておられる愛を、すべての人が知る事です。「イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義(罪の赦し、神の前に正しいと認められる、神との関係の回復)です。そこに差別はありません」ローマ3:22。「あなたがたは、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰を持っていながら、人をえこひいきすることがあってはなりません」ヤコブ2:1。神の前に尊くない命は、ない。人種、命に価値の差はない。

Ⅴ こんなに愛して下さる神への応答。愛のうちに歩む。神の恵みへの感謝から生まれるもの。多くの罪を赦された(恵みを自覚している)人は、神と人を多く愛する人になります。ルカ7:47

1. 神への感謝と愛。神への礼拝、日々の歩みで、御心に従う。自分の罪を告白し赦しときよめをいただく。失敗しても神は、また、立ち上がらせて下さる。人生をあきらめてはいけない。

2. キリスト者の互いの愛。憤り、悪口、悪意を捨て、互いに愛し合い赦し合う。主にある一致を保ち、主の教会を建て上げる。世の困っている人々に愛を示す。コロナの中、医療、介護従事者の方々に感謝!

3. コロナの中でも、主を知らない人々を神の愛で愛し、福音を生活と言葉で伝える。※証し。